



Michigan Newsletter

February 2025

No.5

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

- 将来日米の懸け橋となる皆さんへ

ページ 1~2

観光プロモーション

- ロサンゼルスでの旅行博で滋賀県をアピール！

ページ 2~3

ミシガントピック

- ミシガン州立大学に多文化センターが開館

ページ 3~4

経済交流

1. 将来日米の懸け橋となる皆さんへ

2月6日、ノバイ市で開かれた、日本語や文化を理解し、日本への滞在経験などを持った日米の懸け橋となる人材にフォーカスしたユニークな就職フェアにゲストスピーカーとして参加しました。求職者は約 200 名、参加企業は 23社に上りました。

開会式では、在デトロイト総領事とノバイ市長と並んでスピーチの機会を頂き、文化交流を経験した人や日本の文化に関心のある皆さんが日米の懸け橋になり、これから日本企業の発展にもつながっていくことを伝えました。滋賀県に行ったり、滋賀県から来た人に出会ったら、「アメリカから来たんですね」ではなく、「ミシガンから来たんですね！」と歓迎してもらえることを伝えると、会場の笑いも誘え、緊張の中ほっとする瞬間でした。

在デトロイト日本国総領事館の岸守総領事からは、(前の赴任地である)カリフォルニア州知事の口から大阪という言葉を聞いたことがなかったので、ホイットマー州知事が「滋賀」と言った時は驚いたというエピソードを紹介いただき、滋賀県のことを知っている人いますか、と会場に投げかけられ、会場内の約 20 人の手が挙がりました。

開会式終了後、求職者は各自企業ブースを回り、企業担当者との面会や情報収集を行いました。参加者の中には、元滋賀県内の



参加者の熱気であふれる会場内。

長蛇の列ができているブースもありました。

外国語指導助手や、この夏に彦根のミシガン州立大学連合日本センターに留学予定の学生グループもあり、たくさんの方に声をかけてもらいました。

ミシガン州立大学連合日本センターでは毎年 100 名以上のミシガン州等からの留学生を受け入れており、日本語能力があり、日本の文化も理解し、何より滋賀県が大好き！という貴重な人材を輩出しています。こういった人たちに、滋賀の、日本の企業の魅力を知ってもらい、大学卒業後も滋賀県や日本に関わってもらうことは、より広く深い意味での日米の経済発展につながるのではないかでしょうか。こういった就職フェアは、教育面や文化面の交流を、経済交流につなげていくための貴重な場であり、今後も継続して関わっていこうと思います。



参加企業のロゴとともに。

観光プロモーション

1. ロサンゼルスでの旅行博で滋賀県をアピール！

2月22日～23日、ロサンゼルスにて開催された来場者 2万人規模の米国最大級の旅行博、「2025ロサンゼルストラベル&アドベンチャーショー(LATAS)」でのびわこビジターズビューロー海外誘客部による観光プロモーションを支援しました。ロサンゼルスは日本に対する親近感や関心度が高く、訪日旅行を具体的に計画している人やリピーターも多い地域です。米国内には他にも旅行博はあるそうですが、この旅行博は、一般消費者だけでなく、旅行業界関係者に直接PRする場があり貴重な場となっています。

ちょうど夏の旅行先を考え出すこの時期に、情報収集を求めて入場料を払ってまで来場しているとあれば、PR の効果は絶大とあり、昨年、関西観光本部の事業を活用して初めて滋賀県のブースを出展。2回目となる今回は、「グランドサークルプロジェクト」の一環として、北陸新幹線沿線自治体等(JR 西日本、滋賀県、福井県、石川県、長野県、東京都、長野市)が共同で出展し、来場者に「新ゴールデンルート」を提案しました。

一般消費者に向けて

日本国内で旅の大きな目的地となる東京と京都の間をどのように移動するかは、多くの人が直面するテーマです。新幹線は多くの人が知っているため、「新しい新幹線のルートができた」という切り口で、東京から京都までの北回りの周遊コースを地図で説明すると、この地図の入ったパンフレットを持って帰りたい、と多くの人が希望される人気ぶりでした。こういった日本到着後のルートが知りたかった！と私たちの説明を大変熱心に聞いてくれ、こちらが驚くほどでした。



今回、沿線の自治体やJR西日本とともに共同でブースを出展したため、新幹線で周遊する際のお得なチケットの情報や、さらに東京、長野、石川、福井、滋賀の沿線の観光情報のパンフレットも一気に手に入り、来場者にとって、旅の計画がしやすく、効率的に情報収集できたのではと思います。

旅行業界関係者へ向けて

アメリカでは個人旅行も好まれるため、トラベルコーディネーター(客からのリクエストに応じて旅行プランをコーディネートする職業。)の方にモデルコースを提案する貴重な機会になりました。また、メディアの方とも商談する機会を得て、高島市の白髭神社や近江八幡市の水郷巡りなど、おすすめの撮影スポットを紹介。おすすめの食べ物について質問を受け、ビューロー職員とともに、脂の融点の低い近江牛のおいしさをPRし、訪日の際は、ぜひ立ち寄ってもらうようお願いしました。

成果等について

2日間を通して、約1000人が滋賀県の出展したブースに来場し、そのうち600人の来場者に対し、びわこビジターズビューロー職員と2名で個別に滋賀県について説明することができました。

用意した1000部の観光パンフレットはほぼすべてなくなりましたが、事業者からの忍者や温泉などのパンフレットは具体的で魅力的だったものの部数に制約があり、もっとたくさんの人に知ってもらえたからよかったのに、という思いも残りました。パンフレットには限りがあるため、QRコードに誘導するなど、より多くの具体的な情報を伝え、ちらしを一枚ずつ取る時間のない来場者のためにチラシ一式の入ったパックを作つておいたところ、工夫して効果をさらに高め、今後も滋賀県の魅力をもっと多くの人に知ってもらえたと思います。



ミシガントピック

1 ミシガン州立大学に多文化センターが開館

寒空の下、イーストランシング市にあるミシガン州立大学のキャンパスの真ん中に現れたのが、多文化センターです。3,800万ドルをかけ建設され、2月12日に開館した大学のカラーである緑色が映えるこの建物は、イベント用の多目的ルーム、学生が集まるスペース、会議室、瞑想のためのスペース等があり、学生のコミュニティ構築や、学術面や健康面のサポートも目的としているそうです。

2023年から建設が始まり、このタイミングで完成したことは、地元のメディアでも大きく取り上げられました。というものも、トランプ米大統領が多様性・公平性・包括性(DEI(Diversity, Equity, Inclusion))プログラムに対する連邦政府の取り締まりの真っただ中だったからです。トランプ大統領は、1月21日の大統領令でこれらのプログラムを禁止しており、DEIプログラムを「違法」かつ「差別的」と呼び、「10億ドルを超える基金を持つ高等教育機関」のコンプライアンス調査を求めており、ミシガン州立大学も含まれています。

調査の結果がどうなるかは不透明ですが、ミシガン州立大学のウェブサイトによると、4億7,400万ドルが連邦政府からの資金であり、総研究費の半分以上にのぼるそうです。

ミシガン州立大学では、1月29日に予定されていた旧正月のお祝いが前日に突然キャンセルされたものの、学生の反発を受けて、大学はキャンセルについて謝罪し、イベントは日程を変更して開催されたという出来事もありました。この大統領令への懸念が大学側で働いたからではないかとささやかれています。

毎日こういったニュースを耳にする中で、私が今関わっている教育関係、文化関係のプロジェクトが突然キャンセルになってしまったらどうしよう、などふと不安に駆られる時があります。そんなときに、この真新しく堂々とそびえているこの建物を見ると勇気づけられます。今後イベントなどでコラボレーションできる機会があるかもしれません、今から楽しみです。



建物の外観および館内の様子。